

ナイスケアだより

第101号
令和2年10月発行

10月に入っても新型コロナウイルスの感染が続いています。冬にはインフルエンザなども重なり、感染拡大が予想されます。

そんな中、新宿区医師会の訪問診療で活躍されている先生方を中心に『新宿区新型コロナウイルス対策医療・介護ネットワーク』が設立されました。医療関係者、介護事業者がオンラインで集まり、現状の情報交換や感染予防対策の会議や研修会を行いはじめました。

先日の研修会に参加し、先生方から新型コロナウイルスの病識や感染予防の講義を受けました。介護事業所の感染予防対策の話も取り入れられることもあり、とても参考になりました。当事業所でも、検温、手洗い、マスクなどの感染予防だけでなく、事業所のデスク回りなどにアクリル板を設置しました。休憩室、相談室、更衣室も人数の制限をし、密をさけるような対応をしました。また長期化する中で、職員間の連携や業務の効率化が図れるよう、オンラインを使用した情報交換、記録ができるようシステムの導入を検討しています。

この冬も新型コロナウイルスの感染予防を油断しないよう徹底し、気を引き締めて対応していきます。



有限会社ナイスケア 代表取締役 塩川 隆史

～月の話～

今年の十五夜は10月1日、十三夜は10月29日です。

仲秋の名月といわれる十五夜の月は、秋の澄んだ空気とともに月見に最も適した高さ、大きさで見えるとされていることから、一年のうちでもとりわけ珍重されていますが、旧暦九月十三日の月である十三夜月はそれに次いで美しいと言われています。

月の満ち欠けの周期は約29.5日で、新月から数えて十五日目はほぼ満月の状態。十三夜の月はそれより少し前の、八割方満ちた状態です。月の呼び方はその月齢による見え方から朔(新月)、上弦、望(満月)、下弦と変化し再び朔に戻ります。また、二日月、三日月のようにそれぞれの日数で呼ぶ名前や、満月以降次第に遅くなる月の出に対しては十六夜、立待月、寝待月などと呼ぶ場合もあります。



月の公転と自転は同じ周期なので地球からはいつも同じ側が見え、日本などではその陰影を仏教説話の中で空腹で倒れた老人に自ら火に入ってその身を捧げたというウサギの姿に見立てています。

ウサギが作る仙薬と月の光が、コロナ禍中の人々を癒しますように。

川上 謙典